

はじめに - 書道史研究の前提となるもの -

- ・読み書き算盤、素読から始まる手習修業 読解力
- ・遺墨、遺品の存在(確認)がなければ成立しない 情報収集
- ・遺墨、遺品の真偽を見極め玉石を判別する 鑑識眼

1、時代区分

- ・前期 水戸藩の成立、藩制の確立(初代頼房から三代綱條)
- ・中期 水戸藩の展開、成熟、停滞(四代宗堯~八代斉修)
- ・後期 水戸藩の動乱、(九代斉昭)
- ・幕末維新时期 水戸藩の終末、茨城県の成立(十代慶篤~十二代篤敬)

2、出版物から編著者の検討

- ・三国筆海全書 真幸七左衛門忠次(改、正心、三国筆海堂)の経歴
- ・草露貫珠 中村義竹、岡谷義端の業績
- ・花押藪、続花押藪 丸山可澄と畠山牛庵 仮名文字への関心
- ・韻府古篆彙選 東臯心越と水戸の篆刻界
- ・成章堂拓本 岩田健文・剛文兄弟と立原翠軒
- ・行書類纂 土浦藩士 関氏一族(七代)の出版
- ・(著書多数) 幕臣 細井廣澤の書法、文房四宝の研究

3、人物から追求する遺墨の検討、確認

- ・水戸藩の祐筆役
- ・彰考館の総裁及び編集員
- ・藩主及び藩士
- ・幕末の志士、草莽の士

4、遺墨からみた水戸の書

- ・書幅(詩幅、歌幅)
- ・色紙、短冊、懐紙
- ・書簡
- ・印譜

5、水戸の文房四宝、七宝

- ・筆、墨、紙、硯
- ・墨台、筆筒、硯、筆架、水滴、筆置、文鎮、印泥
- ・硯箱、文箱、文机、経机

6、むすび

水戸の書家

- 1、御家流の系譜
 - ・水戸藩 祐筆の書、真幸正心、木戸由仁、長山七平
 - ・彰考館 書写場雇と物書き
 - ・西山侍臣の面々 井上玄桐、鈴木宗与
- 2、渡来僧 東皐心越の影響
 - ・唐様の流行
 - ・篆刻ブーム 高 芙蓉、林 十江、藤田北郭、立原杏所、野口北水、鈴木泥橋
- 3、彰考館総裁及び編集員の書（儒学者の書、国学者の書、個性のぶつかりあい）
 - ・前期 安積澹泊、酒泉竹軒、僧 契仲、安藤年山・抱琴
 - ・中期 立原翠軒、藤田幽谷、小池友識
 - ・後期 会沢正志斎、豊田天功、青山延光
- 3、江戸における唐様の展開、水戸への影響
 - ・北島雪山と松下烏石、松平頼順
- 4、江戸における米庵流の流行
 - ・大窪詩仏、菊池五山、亀田鵬斎、太田南畝
- 5、水戸藩の書道隆盛
 - ・儒学 立原翠軒、松平太玄斎、藤田北郭、鶴殿清虚、立原杏所
 - ・国学 小池友識、吉田令世、三輪信善、西宮宣明、久米博高
 - ・在野在村 長久保赤水、木村謙次、宮本茶村、加倉井砂山、小山霞外
- 6、巻 菱湖、玉木愛石と幕末の志士
 - ・関 鉄之介、武田耕雲斎
- 7、学制と明治の茨城書壇
 - ・書家 栗橋文園、北條時雨、岩田鶴皐、荻原秋巖、山内白雲、神郡晚秋
 - ・学者 栗田 寛、栗田 勤、青山延寿、野口勝一、綿引東海、菊池仙湖
内藤耻叟、朝比奈知泉、小宮山天香、友部忍蘆
 - ・歌人 久米幹文、間宮永好、谷 勤、小池道子、中島歌子、黒沢時子
朝日商豆、(俳人)石倉翠葉、相島虚吼
 - ・文人 野口雨情、長塚節、横瀬夜雨、菊池幽芳、小川芋銭、奥原晴湖
- * 1) 個性的な書を求めて
 - ・徳川斉修の定家様
 - ・徳川斉昭の篆隸体
 - ・佐久良東雄の上代仮名
 - ・幕末の志士の書
 - ・揚州八怪と水戸書壇
 - ・歴代彰考館総裁の書
 - ・弘道館の教育と領内郷校の館守
- * 2) 文房四宝の遺品
 - ・西之内紙、水戸紙（漉き返し紙）、水戸絹（天蚕、山繭）
 - ・梶畠硯、小久慈硯、咸章堂の墨、加納薬輔の筆、水戸彫り硯箱

参考文献

1、研究、論文、市町村史等

- ・咸章堂岩田健文（岡沢稲里著）
- ・立原翠軒（前田香径編著）
- ・水戸の芸苑（伊藤 修著）
- ・水戸の蔵書印（秋山高志編）
- ・杏所・十江印譜集（立原善重編）
- ・大日本史紀傳志表選者考（吉田一徳著）
- ・水戸の文籍考（清水正建著）
- ・古今常総の学と術と人（大内地山著）
- ・茨城の墨蹟（大内健二編）
- ・小久慈硯
- ・水戸市史（中巻 1,2,3,4）他県内各市町村史
- ・郷土文化（1～50号）
- ・書道研究（1～40号）
- ・日本書蹟大観（1～25巻）
- ・過眼墨宝選集（1～9集）
- ・水荃（1～20号）

2、図録、カタログ、パンフレット等

- ・水戸先哲遺墨帖（T15、孔子祭典會）
- ・水戸流芳遺墨（S3、青山会館）
- ・安政大獄関係志士遺墨集（S5、青山会館）
- ・勤皇遺烈集（S11、勤皇事蹟顕彰會）
- ・勤王志士遺墨展覧会（S13、高島屋）
- ・水戸名家遺墨集（S17、井田書店）
- ・茨城の書跡（S57、茨城県立歴史館）
- ・硯の魅力 - その用途・美 - （1994、土浦市立博物館）
- ・詩仏の墨技 - 唐様と南画（H6、山村青雨）
- ・水戸藩主光圀と斉昭の巡村（H10、大子町教育委員会）
- ・古墨の美 - 墨色いろいろ（H12、土浦市立博物館）
- ・料紙装飾の世界（H13、茨城県立歴史館）
- ・幕末の志士佐久良東雄 - その生涯と交遊 - （2001、土浦市立博物館）
- ・江戸時代の友部地方・宍戸藩 - 秋田氏と松平氏 - （H16、友部町教育委員会）
- ・大窪詩仏展（2008、日立市郷土博物館）
- ・久原コレクション（日立市郷土博物館）
- * 茨城名家家宝寶鑑（茨城新聞社）

光圀の書について

水戸義公、名光圀、字子龍、小名千代松、初字徳亮また觀之後子龍

号、日新齋、常山人、卒然子、梅里

- ・光国 藩主在任中・・・祐筆
- ・光圀 藩主在任中(52~3歳頃から)・・・祐筆、自筆、物書き
- ・子龍 親しい家臣に宛てた場合・・・自筆だろう
- ・西山 西山荘へ隠居後 代筆が多い 鈴木宗与か？
- ・梅里 西山荘へ隠居後 代筆が多い 井上玄桐か？
- ・梅里宰相 西山荘へ隠居後・・・自筆と物書きと相手によって使い分けか？
- ・常山梅里 西山荘へ隠居後・・・代筆が多い
- ・水戸黄門 西山荘へ隠居後・・・將軍家及び紀伊、尾張家宛・・・自筆か？
- ・中納言光圀
- ・日新齋、常山人、卒然子、梅里 詩歌の時に使用か